

## 第 3 部



# いじめ防止のための 「学習プログラム」

いじめ問題を未然に防いだり、適切かつ迅速に解決したりするためには、子供たち自身が、いじめを自分たちの問題として主体的に考え、話し合い、行動できるようにすることが重要です。全ての教育活動を通じて、子供一人一人に対して、自らがいじめについて考え、自ら行動し、いじめ問題に対応できる力を意図的・計画的に身に付けさせることができるよう、学習プログラムを開発しました。

## 「学習プログラム」の構成の特徴

プログラムの項目とねらい	上巻との関連
<p><b>1 いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成</b></p> <p>《ねらい》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめについて深く考え、いじめは絶対に許されない行為であることを自覚する。</li> <li>○ いじめの防止に向けて、協力し合い、より良い学校生活を作り出す自主的な態度を養う。</li> </ul>	<p>未然防止</p> <p>(1) 子供が安心して生活できる学級・学校風土の創出</p> <p>(3) いじめを許さない指導の充実</p> <p>(4) 子供が主体的に行動しようとする意識や態度の育成</p>
<p><b>2 互いの個性の理解</b></p> <p>《ねらい》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の良いところや、友達の良いところに気付き、生活の中で、どのように生かしていくかを考え、実行しようとする意思をもつ。</li> <li>○ 自分の良いところや友達の良いところを、「価値ある個性」と捉え、自尊感情や自己肯定感を育む。</li> </ul>	<p>未然防止</p> <p>(4) 子供が主体的に行動しようとする意識や態度の育成</p>
<p><b>3 望ましい人間関係の構築</b></p> <p>《ねらい》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の気持ちや立場を考えたコミュニケーションの在り方について考え、自他を尊重した望ましい人間関係を築く。</li> <li>○ 集団全体の合意形成に向けた話し合いを通して、相手の状況や目的に応じてコミュニケーションを図る力を身に付ける。</li> </ul>	<p>未然防止</p> <p>(4) 子供が主体的に行動しようとする意識や態度の育成</p>
<p><b>4 規範意識の醸成</b></p> <p>《ねらい》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団生活や公共の場で守るべきルールやマナー、大切にすべきモラルについて考え、すすんで守ろうとする意欲をもつ。</li> <li>○ 法や決まりの意義について考えることを通して、他者と共生するために必要な規範を身に付けるとともに、主体的に決まりを守ろうとする態度を育む。</li> </ul>	<p>未然防止</p> <p>(1) 子供が安心して生活できる学級・学校風土の創出</p> <p>(4) 子供が主体的に行動しようとする意識や態度の育成</p>

これらの4項目から編成するプログラムは、児童・生徒の発達の段階を考慮して作成し、「小学校低学年」、「小学校中学年」、「小学校高学年」、「中学校」、「高等学校」及び「特別支援学校」の6編で構成しています。

なお、「特別支援学校」に関しては、知的障害のある児童・生徒への指導事例として掲載しています。そのため、障害種別や児童・生徒の実態に応じて、「特別支援学校」だけでなく、他校種の項目を参考に活用してください。

# 「学習プログラム」の活用

(いじめに関する授業に活用できる学習指導案及び板書例、教材文や資料等を見開き2ページで掲載しています。)

「学習のねらい」、「評価」、「教育課程における位置付け」、「主な使用教材」を記載しています。

授業の流れや子供の反応例を掲載しています。板書の活用方法としても参考にしてください。

学校 学年	
4 規範意識の醸成	
◆学習のねらい	◆教育課程における位置付け
◆評価	◆主な使用教材
展開例	
	○指導上の留意点
導入	
展開	
まとめ	

板書例	
[Blank space for board writing]	
発展的な展開例	
	○指導上の留意点
展開	
【資料等】	

「1 いじめをしない、させない、許さない意識の醸成」の「特別の教科 道徳」では、「公正、公平、社会正義」「相互理解、寛容」等、いじめと関わりの深い内容項目の学習指導案を2事例、「2 互いの個性の理解」以降の学習プログラムでは「発展的な展開例」を作成しました。いじめに関する授業の実施状況や学級の実態に応じて、見開きの左ページの「展開例」を繰り返し実施したり、「展開例」の展開部分を「発展的な展開例」に入れ替えて実施したりすることができます。

## 年間を見通した「学習プログラム」の活用時期例（中学校）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
早期未然発見の取組	校内研修① 【学校いじめ防止基本方針】に基づく 確実な取組の推進】	いじめに関する授業① 【いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成】			校内研修② 【いじめ問題の解消に向けた組織的な取組】	
早期未然発見の取組	いじめに関する授業② 【望ましい人間関係の構築】		校内研修③ 【「いじめ」の定義の確実な理解】	いじめに関する授業③ 【規範意識の醸成】		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月

No.	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年
1	<p>自分の好き嫌いとらわれず、誰に対しても仲間外れにしない心情を育てる。</p> <p>◆公正、公平、社会正義 「さるくんはだめ」(東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校1・2年生版 心あかるく』)</p> <p>友達を仲間外れにせず、仲良くし、互いに助け合っているとする態度を育てる。</p> <p>◆友情、信頼 「およげない りすさん」(文部科学省『わたしたちの道徳』小学校1・2年)</p>	<p>自分と異なる思いや考えを大切にできる心情を育てる。</p> <p>◆相互理解、寛容 「ぼくらのビー玉コースター」(東京都教育委員会『「特別の教科 道徳」移行措置対応 小学校版 東京都道徳教育教材集』)</p> <p>いじめをすることなく、誰とでも公平に接しようとする態度を育てる。</p> <p>◆公正、公平、社会正義 「同じ仲間だから」(文部科学省『わたしたちの道徳』小学校3・4年)</p>	<p>相手の気持ちを考えて行動し、互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする心情を育てる。</p> <p>◆友情、信頼 「知らない間の出来事」(文部科学省『私たちの道徳』小学校5・6年)</p> <p>誰に対しても差別をしたり偏見をもったりすることなく、いじめを許さない公正・公平な態度を育てる。</p> <p>◆公正、公平、社会正義 「ユリのうしろ姿」(東京都教育委員会『人権教育プログラム』平成28年3月)</p>
【児童会・生徒会活動等】 ・委員会活動におけるいじめ防止に向けた取組			
2	<p>友達や教師が見付けてくれた自分の良いところを知ること、自分の良いところを積極的に知ろうとする態度を育てる。</p> <p>○ 自分ができるようになったことや紹介できることをカードに記入する。</p> <p>○ 3人グループになり、自分以外の2人の良いところを書き、互いに発表する活動を通して、自分が知らなかった良いところに気付く。</p>	<p>友達や教師が見付けてくれた自分の良いところを知り、自分の良いところを伸ばしていこうする態度を育てる。</p> <p>○ 自分の良いところや、自分の気になるところについて考え、2人組で話し合う。</p> <p>○ 「自分らしさ」について考え、「自分らしさカード」に書く。</p> <p>○ 友達が見付けてくれた新しい「自分らしさ」に気付く。</p>	<p>自分の良いところ、友達の良いところを見つけ、学級の一員としての自分に気付くとともに、全員の良いところを学級で生かしていこうとする態度を育てる。</p> <p>○ 自分の良いところや、自分の伸ばしたいところを考える。</p> <p>○ 4人グループになり、自分以外の3人の良いところを書き、互いにカードを渡す活動を通して、自分が知らなかった良いところに気付く。</p>
3	<p>友達とよりよい人間関係を形成するには、相手のことをよく知る必要があり、相手の話をしっかり聞くことが大切であることを理解させる。</p> <p>○ 友達と一緒に遊んだことや学習したことを通して、元気が出たことをカードに記入する。</p> <p>○ 2人組になり、互いの話を紹介する活動を通して、相手の話をしっかり聞くことの大切さに気付く。</p>	<p>コミュニケーションを行う上で、言葉で伝えることに加え、相手の動きや表情をよく見たり、よく聞いたりして、相手が話したいことを知ろうとすることも大切であることを理解させる。</p> <p>○ 2人組でインタビューをする。</p> <p>○ どのように話を聞いてもらうとうれしかったかを発表する。</p> <p>○ 他者紹介をする。</p> <p>○ 他者紹介を通して感じたことを発表する活動を通して、相手が話したいことを知ろうとすることの大切さに気付く。</p>	<p>コミュニケーションを図ることで、互いに意思や感情、思考を伝え合うことや、新たな考えに気付いたり、考えを深めたりできることを理解させる。</p> <p>○ グループで「いじめを防ぐために大切なこと」について話し合い、考えをまとめる。</p> <p>○ グループごとにまとめた主張とその理由を発表する。</p> <p>○ 自分たちでいじめをなくすために今日からできそうなことを決め、宣言する。</p>
4	<p>いじめは、相手の心や体を傷付ける行為であることを理解させるとともに、いじめのない素敵な学級にするために自分に合ったよりよい解決方法を意思決定できるようにする。</p> <p>○ 学級の良いところを発表する。</p> <p>○ いじめに関するイラストを見て、考えたことを発表する。</p> <p>○ 自分の周りではいじめが起こったときにどうするか考える。</p> <p>○ いじめのない素敵な学級をつくるためのルールを考える。</p>	<p>いじめが起きたときにどうすればよいか考えることを通して、いじめをしない、させない、見過ごさない、見て見ぬ振りをしない態度を育てる。</p> <p>○ 学校や学年、学級等のいじめに関する決まりやルールについて確認し、自分たちの生活を振り返る。</p> <p>○ 決まりやルールを守ることの良さ等を話し合う。</p> <p>○ 学級の決まりを守るために取り組むことを考える。</p>	<p>考え方や感じ方は人によって違っており、その違いを認めることが大切であることや、SNSをはじめとするインターネット上では「誤解」が生まれやすいことを理解させ、考えや気持ちを伝える方法を考えさせる。</p> <p>○ 自分が言われて嫌な言葉や自分がされて嫌なことについて考え、全体で話し合う。</p> <p>○ 友達と話し合って「マイSNS東京ルール」を作成する。</p> <p>○ 「SNS東京ルール」及び「SNS学校ルール」を確認する。</p>

【 指導のねらい ○学習活動 ◆「特別の教科 道徳」における内容項目】

中学校	高等学校	特別支援学校
<p>互いの立場を尊重し、いろいろなもの見方があることを理解し、寛容の心をもつとする態度を育てる。</p> <p>◆相互理解、寛容 「言葉の向こうに」 (文部科学省『私たちの道徳』中学校)</p> <p>正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、正義を実現しようとする態度を育てる。</p> <p>◆公正、公平、社会正義 「傍観者でいいのか」 (東京都教育委員会『人権教育プログラム』平成16年3月)</p>	<p>考え方や価値観の違いを認識し、互いを尊重することにより、より良い学級や学校、豊かな未来を築くことができることを認識させる。</p> <p>(東京都教育委員会『人間と社会』令和3年3月改訂)</p>	<p>自分の好き嫌いにとらわれず、誰とでも仲良く接することができる心情を育てる。</p> <p>◆公正、公平、社会正義 「みんなとなかよく」 (文部科学省『わたしたちの道徳』小学校1・2年)</p>
<p>・ いじめ防止のためのシンポジウム</p>	<p>・ いじめ防止啓発作品づくり</p>	<p>・ いじめ根絶バッジ</p>
<p>良いところを伝え合う活動を通して、今まで気付かなかった自分の良いところに気付き、自分と友達の良いところを学級で生かしていこうとする心情を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内で2人組になり、友達の長所と短所から、相手のその人らしさをまとめ、互いに読み合う。</li> <li>○ 2人組を替えて、読み合う活動を繰り返す。</li> <li>○ 本時を振り返り、感想を発表する。</li> </ul>	<p>友達のその人らしさを探すとともに、自分らしさを生かして地域や社会のために貢献していこうとする態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難所となった学校で、自分やグループのメンバーの好きなことや得意なことを生かして、どのような活動をしてみたいかを考える。</li> <li>○ グループで取り組んでみたいことを決め、その活動に必要な役割と担当者を考える。</li> <li>○ 「自分らしさ」や友達の「その人らしさ」について気付いたことを発表する。</li> </ul>	<p>自分の良いところに気付くとともに、友達や周りの人の良いところを積極的に見付けようとする態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の良いところを考え、「いいね！カード」に書き、発表する。</li> <li>○ 友達の良いところを見付け、「いいね！カード」に書く。</li> <li>○ カードを読んでから友達に渡す。</li> <li>○ 本時を振り返り、自分も友達も多くの「良いところ」をもっていることを確認する。</li> </ul>
<p>コミュニケーションにおいては、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことや、相手の考えを尊重して話し合うことが大切であることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「心みつめて」を読み、人によって物事の捉え方が異なることを理解する。</li> <li>○ 学校行事の一つを選び、その行事を行う上で大切だと思うカードを、順位を付けて並べる。</li> <li>○ グループ内でカードの順位を話し合って決める。</li> <li>○ 集団による意思決定を行い、気付いたことを発表する。</li> </ul>	<p>言葉や感情表現によって相手への意思の伝わり方が異なることを理解させるとともに、自分の意思を正しく伝え、受け止めてもらえるような表現を行っていこうとする態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分も相手も大切にする自己表現についての説明を聞く。</li> <li>○ 他者と意見が異なったときの自分の気持ちの表現の仕方について考える。</li> <li>○ 友人と意見が異なったときを想定し、自分のことを優先する表現、自分も相手も大切にする表現、友達を優先した表現について考える。</li> <li>○ 発表を行い、意見を述べ合う。</li> </ul>	<p>コミュニケーションとは、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことであり、言葉や文字だけでなく、声の大きさや話し方や態度などが大きな役割を果たすことを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コミュニケーションとは何かを考える。</li> <li>○ 自分のペアである相手を探す。</li> <li>○ ペアの相手に、自分の得意なことを伝える。</li> <li>○ 聞いた側は、相手の得意なことを画用紙に書き、握手等をして渡す。</li> <li>○ ペアを探す活動を行う。</li> <li>○ 活動を振り返る。</li> </ul>
<p>SNSの上手な使い方について学び、自分たちの身を守るためのルールを考え、行動できるようにさせ、インターネット上での規範意識を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ インターネットの利用状況を振り返り、日常生活で感じたこと(メリットやデメリット)を発表する。</li> <li>○ 「考えよう！いじめ・SNS@Tokyo」ウェブページを視聴し、感じたことを発表する。</li> <li>○ SNSの利用に際してのトラブルなどを防止又は解決するために必要な「行動宣言」を考える。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<p>SNSを介したトラブルやいじめについて知り、加害者にも被害者にもならないための防止策や、対処方法を身に付けさせ、インターネット上での規範意識を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ SNSの利用状況について2人組で話し合う。</li> <li>○ SNS利用上のトラブルやいじめの具体例を挙げ、防止策や対処法を考える。</li> <li>○ 学習を通して気付いたこと、他の人の考えなどから学んだことをまとめる。</li> </ul>	<p>いじめをなくすために、自分ができることを考えることを通して、いじめをしない、させない、見過ごさない、見て見ぬ振りをしないための態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 居心地の良い学級とはどのような学級であるかを発表する。</li> <li>○ DVD「STOP！いじめ あなたは大丈夫？」を視聴し、いじめについて考える。</li> <li>○ いじめられたとき、その場面に出会ったときに、どのようにすればよいかを考える。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> </ul>

## 児童会・生徒会等

### 1 いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

#### 委員会活動におけるいじめ防止に向けた取組

各種委員会活動を通して、児童・生徒にいじめは絶対に許されない行為であることを啓発し、いじめを許さない環境づくりを促進します。

＜具体的な活動の流れ＞

#### 放送委員会

友達にしてもらってうれしかったことの発表

- 1 校内放送で、放送委員会として「いじめ防止」に関わる「一人一人の良さ」に着目した放送を行う。児童・生徒は校内放送で友達にもらってうれしかったことの発表を聞く。
- 2 発表を聞いた感想を学級・学年間で交流し、「友達の良さ」について考えを深める。

#### 図書委員会

いじめをテーマにした本の読み聞かせ・紹介・感想の発表等

- 1 図書集会や校内放送で、図書委員会として「いじめ防止」に関わる本の読み聞かせ等を行う。
- 2 児童・生徒は、読み聞かせの感想を学級・学年間で交流し、「いじめ」について考えを深める。

#### 生活委員会

校内の言語環境の改善及び充実等

- 1 生活委員が一日を振り返り、学活等で誰かを傷付ける言葉がなかったか等を振り返りながら、言語環境に対する意識を高める。
- 2 日々の取組を基に、望ましい言語環境について考える機会を設ける。ポスター等を掲示することにより、児童・生徒全体の意識の向上を図るとともに、いじめを許さない環境づくりの担い手となる。

#### 期待される効果

同じ目的の下に委員会同士が協力して活動することなどを通して、児童・生徒の主体性を育む効果が期待できます。

#### いじめ防止のためのシンポジウム

児童・生徒と地域住民がいじめ問題をテーマに意見を交流し、いじめ防止に向けた意識啓発を図ります。

＜具体的な活動の流れ＞

- 1 各小・中学校で、いじめ防止のために取り組んでいることについて、ポスターを作成する。
- 2 シンポジウムの開催に当たり、連合生徒会（各中学校の生徒会役員が集まり）で、シンポジウムに込めた思いをテーマにする。（例「心と心の思いやり～人の気持ちに気付ける人へ」等）
- 3 いじめ防止のためのシンポジウムをホール等の公共施設で開催する。参加者は、テーマに込めた思いを基に集う。
  - ・児童・生徒によるポスターセッション
  - ・地域住民との意見交換
  - ・中学校の代表生徒による全体発表
- 4 シンポジウム開催後、各校でシンポジウムの内容を共有したり、自校の取組の工夫・改善を図ったりすることで、学校全体でいじめ防止に向けた意識を高める。
- 5 作成したポスターを役所等に掲示する。



【ポスターセッションの様子】

#### 期待される効果

いじめ防止に向けて、児童・生徒自身がいじめについて考え、行動するとともに、シンポジウムを通じて相互理解を深め、地域全体でいじめ防止に向けた取組が期待できます。

各学校は特別活動の時間等を活用して、いじめの防止に向けた、児童・生徒自身がいじめについて考え行動できるようにするための取組を様々行っており、その一例を掲載しています。保護者や地域の方々と一緒に取り組んだり、保護者会や学校だより等、様々な場面や方法で発信・共有したりしていくことが大切です。様々な取組をつなぎ合わせ、「いじめをしない、させない、許さない」学校・地域づくりを目指しましょう。

## いじめ防止啓発作品づくり

いじめ防止をテーマにしたポスター・標語などの作品づくりを通して、いじめは絶対に許されない行為であることを啓発します。

### (例) いじめに関する人権標語

#### <具体的な活動の流れ>

- 1 いじめに関する授業を行う。
- 2 児童・生徒がいじめに関する人権標語を作成する。「いじめは悪い」、「いじめをしてはいけない」ということだけではなく、「どうすればいじめがなくなるか」について表現する。

#### 【作品例】

- ・「だいじょうぶ？」この一言で心ぼかぼか
  - ・がまんせず ぼくが聞くよ その気持ち
  - ・やらないで みんなでやろうよ 協力して
- 3 校内や地域の交流施設等で展示し、保護者や地域関係者と思いを共有する。
  - 4 各校の代表作品を役所等に展示する。

※ 人権感覚を身に付けるための機会を定期的に設け、他者を思いやる心や相手を認めることの大切さを確認できるようにする。

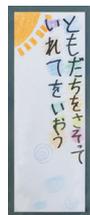
※ 「ふれあい月間」や「人権週間」に合わせて実施するとより効果的である。



【展示の様子】



【児童の作品】



### 期待される効果

全校児童・生徒が標語の作成に関わったり、作品を校内外に掲示したりすることで、いじめ防止に対する意識を高め、持続させる効果が期待できます。

## いじめ根絶バッジ

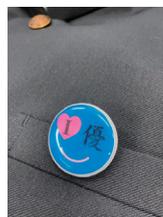
児童・生徒、学校関係者、教育に携わる一人一人がバッジを着用することで、いじめ防止の意識を高めます。

### <具体的な活動の流れ>

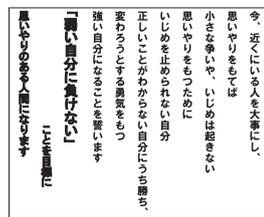
- 1 いじめ根絶の思いを込めた「いじめ根絶バッジ」のデザインを募集し、作成する。
- 2 土曜授業日等、毎月決められた日を「いじめ防止推進デー」に設定する。
  - ・児童・生徒がいじめ根絶バッジを着用する。
  - ・朝の会での学級担任による講話や授業等を通じ、「いじめは絶対にしてはいけないものである」という意識をもつ。
  - ・PTA役員等も着用し、児童・生徒と思いや姿勢を共有する。
- 3 全校集会等で、児童・生徒会役員がいじめ防止に向けた宣言を紹介し、続いて全校児童・生徒が復唱する。

※ バッジに込めた先輩の思い等を全校集会等で紹介する。

※ 学校案内等にバッジを掲載するなど、いじめ防止のための学校の取組を紹介する。



【いじめ根絶バッジ】



【いじめ防止に向けた宣言】

### 期待される効果

児童・生徒のいじめ防止への意識を高めることを通して、日常的ないじめ防止につながる取組です。児童・生徒が保護者や地域住民とともに、いじめを自分たちの問題として考え、行動しようとする意識を高める効果が期待できます。

1

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

◆学習のねらい

自分の好き嫌いにとらわれず、誰に対しても仲間外れにしない心情を育てる。

◆評価

友達に対して好き嫌いせず、仲間外れにしないで生活していこうとする意識を高めている。

◆教育課程における位置付け

特別の教科 道徳（公正、公平、社会正義）

◆主な使用教材

・「さるくんは だめ」（東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校1・2年生版 心あかるく』）

展開例

	学習活動（◇教師の発問例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 友達と一緒にいて、うれしかったことを発表する。	○ 学級の実態に合わせて、事前アンケートを取り、気付いたことを発表させてもよい。
展開 35分	2 教材「さるくんは だめ」を読み、話し合う。 ◇ さるくんが、「ぼくも 入れて」と言ったとき、りすさんたちはどんな気持ちになったでしょうか。 ◇ しんとなってしまうとき、りすさんたちはどんな気持ちだったでしょうか。 【中心発問】 おこりんぼうのさるくんを仲間外れにした、りすさんたちを皆さんはどう思いますか。	○ 個人で考える時間を設けた後、ペアや班で考えさせる。 ○ どんな相手に対しても、仲間外れにしないことの大切さに気付かせる。
終業 5分	3 学級のみんなが気持ちよく生活するために一人一人ができることを考え、伝え合う。 4 『心あかるく』16、17ページ「ともだち」（作・谷川俊太郎）を読む。	○ 実施時期によっては、3の学習活動を「考えたことをワークシートにまとめて、発表する。」等に置き換える。

板書例

さるくんといっしょにケーキをつくらうとき。

- ・ やっぱりみんなといっしょがたのしいな。
- ・ 1くみのみんながきもちよくせいかつできるために、なにができるだろう。
- ・ なかまはずれをしない。
- ・ いやなことやこまだったことがあったら、ことばでもだちにつたえる。
- ・ せんせいに、そうだんする。

さるくんは だめ

ぼくも入れて。おいしいケーキの作り方をしているよ。

今日ごめんね。  
・ だって、さるくんはすぐおこるのだから。  
・ さるくんがおこったら、せっかくなのに、たのしくなくなるもの。  
・ おこったら、こわいもの。いっしょにやりたくない。

教材文

さるくんは だめ

そよ風の森で、リナさんが、木のみを さがして います。そこへ、なかよしの 小鳥さんが やって きました。「リナさん、何を して いるの。」

「木のみを さがして いるの。たくさん あつめて、おいしい 木のみを ケーキを 作るのよ。」

「いいなあ。わたしも 入れて。わたしは、上の方の 木のみも とれるのよ。」

「もちろん。いっしょに 作りましょう。」

しばらくすると、いつも おもしろい きつねくんが やって きました。「リナさんと 小鳥さん、何を して いるの。」

「木のみを さがして いるの。たくさん あつめて、おいしい 木のみを ケーキを 作るのよ。」

「いいなあ。ぼくも 入れて。ぼくは、木のみを さがすが 上手なんだよ。」

「もちろん。いっしょに 作りましょう。」

また しばらく すると、おこりんぼうの さるくんが やって きました。「リナさんと 小鳥さんと きつねくん、何を して いるの。」

「木のみを さがして いるの。たくさん あつめて、おいしい 木のみを ケーキを 作るのよ。」

「いいなあ。ぼくも 入れて。ぼくは、おいしい ケーキの 作り方を 知って いるよ。」

リナさんと 小鳥さんと きつねくんは、目を 合わせて、少し 考えて しまいました。「さるくん、また こんど、いっしょに 木のみを ケーキを 作りましょう。今日は、ごめんね。」

そう 言って ことわりました。さるくんの 顔は まっかになり ました。そして、ブンブン おこって、足を ふみながら 帰って きました。「しょうがないよね。」

「しょうがないよね。」

リナさんと 小鳥さんと きつねくんは、また 木のみを さがしはじめました。でも、なぜか みんなは、しんと なって しまいました。

どのくらい 時間が たったでしょうか。リナさんが ぼつりと 言いました。「やっぱり わたし、さるくんを よんで しようかな。」

小鳥さんと きつねくんも、しずかに うなずきました。

みんな、さるくんを よびに いきました。森に 帰って くと、さるくんも いっしょに なって 木のみを あつめました。今までに 見たことも ないくらい、たくさんの 木のみが あつまりました。そして、さるくんは 作り方を 教えて もらいながら、みんな ケーキの きじを 作り ました。かまどに入れて、しばらくすると、おいしそうなおいしそうな においが、そよ風の森 いっぱいに 広がって きました。

（野村 宏行 作）（橋本 ひろみ 改編）  
東京都教育委員会『小学校版 東京都道徳教育教材集』

資料等

○終末で使用する資料

ともだちと てをつないで  
ゆうやけを みた  
ふたりつきりで  
うちゆうに うかんでるー  
そんな きがした

ともだちと けんかして  
うちへ かえった  
ころの なかが  
どろで いっぱいー  
そんな きがした

ともだちも  
おんなじ きもちかな

たなかわ 俊太郎 『ともだち』  
『心あかるく』小学校一・二年生版

1

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

◆学習のねらい

友達を仲間外れにせず、仲良くし、互いに助け合っていこうとする態度を育てる。

◆評価

自分のことだけではなく、友達の気持ちも考え、仲良くすることの大切さに気付いている。

◆教育課程における位置付け

特別の教科 道徳（友情、信頼）

◆主な使用教材

・「およげない りすさん」（文部科学省『わたしたちの道徳』小学校1・2年）

展開例

	学習活動（◇教師の発問例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 友達と一緒に遊んでいるときの気持ちを思い出す。 ◇ 友達と一緒に遊んでいるとき、どんな気持ちですか。	○ 児童の実態に応じて、学級の友達と一緒に遊んでいるときの気持ちを考えさせる。
展開 35分	2 教材「およげない りすさん」を読み、かめさんたちの気持ちを考える。 ◇ かめさんたちは、どんな気持ちで、「りすさんは、およげないから だめ。」と言ったのでしょうか。 ◇ 島で遊んでいるかめさんたちは、どんな気持ちで遊んでいるのでしょうか。  【中心発問】 にここにしているりすさんを見た、かめさんたちは、どんな気持ちでしょう。	○ 教材提示の際は、児童の実態に応じ、場面絵を活用した紙芝居等を活用する。 ○ 一貫して、かめさんたちの気持ちを考えることを確認する。 ○ あひるさん、かめさん、白鳥さんの立場に立った役割演技を行い、少しも楽しくない理由を考えさせる。 ○ 場面絵を用いて、みんなが笑顔であることを確認する。
	3 友達と助け合っよかったと思ったことはありますか。また、そのとき、どんな気持ちになりましたか。	○ 個で考える時間を十分に設けて、書く活動や話し合う活動に取り組みさせる。
終末 5分	4 教師の説話を聞く。	○ 教師が低学年のときに、助けてもらった経験を話す。

板書例

教材文

**場面②**

そして、みんなは 池に 入ると、しまの方へ およいで、いって、しまいました。りすさんは、一人ぼっちに なって しまったので、うちへ 帰りました。みんなは、しまに つきました。しまには、すべり台や、ぶらんこが、ありました。しかし、あそんで、いても、少しも 楽しくありません。

**およげない りすさん**

**場面①**

池の ほとりで、あひるさんと かめさんと 白鳥さんが、池の 中の しまへ 行って、あそぶ、そうだんを、して、いました。そこへ、りすさんが、あそびに、来ました。りすさんも、みんなと、いっしょに、しまへ 行きたく、なりました。そこで、「ぼくも、いっしょに、つれて、いってね。」と、みんなに、たのみました。「りすさんは、およげないから、だめ。」みんなが、言いました。

**場面④**

かめさんは、「りすさん、りすさん、ぼくの、せ中の、りなさいよ。」と、声を、かけました。りすさんは、にこにこしながら、かめさんの、せ中に、のりました。かめさんの、せ中の、った、りすさんを、かこんで、みんなは、しまへ、行きました。

文部科学省『わたしたちの道徳』小学校一・二年

**場面③**

「やっばり、りすさんが、いた、ほうが、いいね。」  
 「でも、りすさんは、およげないからな。」  
 白鳥さんと、あひるさんが、言いました。  
 かめさんは、しばらく、してから、「うん、いい、考えが、ある。」と、言いました。  
 つぎの、日、りすさんが、池の、ほとりへ、行って、みると、みんなが、あそんで、いました。  
 「りすさん、きのうは、ごめんね。」  
 「今日は、りすさんも、いっしょに、しまへ、行こうよ。」  
 白鳥さんと、あひるさんが、言いました。

1

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

<p>◆学習のねらい 自分と異なる思いや考えを大切にする心情を育てる。</p> <p>◆評価 自分と異なる思いや考えを大切にす、互いに理解しようとする気持ちをもっている。</p>	<p>◆教育課程における位置付け 特別の教科 道徳（相互理解、寛容）</p> <p>◆主な使用教材 ・「ぼくらのビー玉コースター」（東京都教育委員会『「特別の教科 道徳」移行措置対応 小学校版 東京都道徳教育教材集』）</p>
---	---

展開例

	学習活動（◇教師の発問例）	○指導上の留意点
導入 5分	<p>1 意見がまとまらなかったときの生活経験を想起する。</p> <p>◇ 何人かの友達で何かをしようとしたとき、困ったことはありますか。</p>	<p>○ 道徳的価値に対する問題意識をもたせる。</p>
展開 35分	<p>2 教材「ぼくらのビー玉コースター」を読み、話し合う。</p> <p>◇ たかしはどんな気持ちで、さとりやす子に意見を言っているのでしょうか。</p> <p>「もうちょっと考えて作ってよ。お願い。」と言っている場面</p> <p>「なんで、こんなテープのはり方をするんだよ。」と言っている場面</p> <p>「やす子はざつなんだから。」と言っている場面</p> <p>【中心発問】 たかしは、どんな気持ちでみんなと話せばよかったのでしょうか。</p> <p>3 相手の立場に立って考えることができたことはありますか。</p>	<p>○ 徐々にイライラする気持ちが大きくなっているたかしに共感させる。</p> <p>○ たかしの気持ちを考える発問は、時間をかけ過ぎないように留意する。</p> <p>○ 先の発問で出たたかしの気持ちを基に考えさせる。</p> <p>○ 個で考える時間を十分に設けて、書く活動や話し合う活動に取り組みさせる。</p>
終末 5分	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>○ グループ活動で、友達との思いのすれ違いがあったが、お互いの思いを理解して活動できた話をする。</p>

板書例

ぼくらのビー玉コースター



さとる



やす子



もうちょっと、考えて作ってよ。

・そんなんじゃないんだよ！  
・勝手に作るなよ！  
・どうしてぼくの気持ちに分らないのかな。

あまり手を出さないでほしいな。



よし美

さとる

やす子



たかし

・自分の意見をおしつけなくてよ。  
・ぼくはこうした方がいいと思うって、やっているとんだ。

○たかしは、どんな気持ちでみんなと話せばよかったのだろう。

- ・みんなよいものを作りたい気持ちと同じだ。
- ・一人一人の考えはちがうから、だれかの意見で作るしかない。
- ・自分の意見をおしとおすことはまちがっている。
- ・友だちの考えをよく聞き合うことが大切だと思う。

教材文

ぼくらのビー玉コースター

図工の時間に、四人のグループでビー玉コースターを作ることになった。たかしは、さとる、やす子、よし美とのグループだ。

「さとるくん、ぼくたち二人いれば、クラスで一番かっこいいのができるぞ。」  
「そうだね。みんなをびっくりさせたいね。」  
「ちよっと、わたしたちを忘れないで。よし美とわたしがいれば、ばっちりよ。」

グループで、さっそく作り始めた。

「たかしくん、コースのここは、わざと、がたがた道にしたほうがいいよね。」  
「さとる、ナイスアイデア。それでいい。ぼくは、このカーブを作るよ。」  
よし美は、

「ここは、ビー玉がストーンと落ちるようにするわ。」  
やす子は、

「こっちは、ぐるぐる回るようにする。」

と、みんなやる気満々で、それぞれの考えや、気付いたことから、さまざま工夫をして作っていった。すると、たかしがとつぜん、コースターをささえる柱を見つめながら、

「これ、コースのじやまだよ。」

と言った。その柱は、さとるが作ったところだ。

(ぐらぐらしていたから、じょうぶにしようと思って柱をふやしたのに。……)

さとるは、柱を作った理由を口に出そうとしたが言えなかった。

「もうちょっと考えて作ってよ。お願い。」

「ごめん、ごめん、ここにコースを作るって思わなかったから。この柱は取るね。」

さとるは、いつも、自分が思っていることを言えなくて、このようになってしまふ。悲しそうな顔をして柱を取るところを、やす子とよし美は見ていた。

しばらくすると、たかしがまたおこり始めた。

「なんで、こんなテープのはり方をするんだよ。じやまになって、これじゃあ、速く転がらないよ。速く転がって、急カーブになるほうがおもしろいんだからさ。」

「そうしたのは、わたしだけ。ゆっくり転がるほうがいいじゃない。」

やす子は、むっとした顔で答えた。

「ちがうね。だいたい、やす子はぎつんだから、あまり手を出さないでほしいな。」

「ひどい。」

やす子はいすにすわってうつつむいてしまった。こみあげてくる感じようをこらえているようだった。たかしは、ちよっと言いすぎたことに気づいた。しばらくするとチャイムが鳴り、作業が進まないまま三・四時間目の図工の時間が終わってしまった。

その日は、それ以後、四人が言葉をかけ合うことはなかった。

下校のとき、たかしは、図工の時間を思い出して、

「どうしよう。」

と、つぶやいた。

東京都教育委員会「小学校版 東京都道徳教育教材集」(由良 隆 作)

# 1 いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

<p>◆学習のねらい いじめをすることなく、誰とでも公平に接しようとする態度を育てる。</p> <p>◆評価 誰に対しても分け隔てなく、公平な態度で接しようとする意識を高めている。</p>	<p>◆教育課程における位置付け 特別の教科 道徳（公正、公平、社会正義）</p> <p>◆主な使用教材 ・「同じ仲間だから」（文部科学省『わたしたちの道徳』小学校3・4年）</p>
--	---

## 展開例

	学習活動（◇教師の発問例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 いじめの捉え方を確認する。 ◇ この絵（『わたしたちの道徳』179ページ）を見て、気付いたことを発表しましょう。	○ 一人である女の子に焦点を当てて、いじめ問題につながる場面であることを確認させる。
展開 35分	2 教材「同じ仲間だから」を読み、話し合う。 ◇ ひろしの不満そうな言葉に、「そうねえ」と相槌を打ったとも子は、どんな気持ちですか。  【中心発問】ひろしの言葉にはっとしたとも子は、どんなことを考えましたか。	○ 勝ちたいけれど、責めるのは間違っているというとも子の気持ちに共感させる。  ○ ひろしの言動の意味を理解した驚きと、勝つために光夫君を休ませるのは間違っているという気持ちを中心に考え、グループで話し合わせる。
終末 10分	3 誰とでも公平に接することができた経験はありますか。そのとき、どんな気持ちで行動しましたか。  4 教師の説話を聞く。	○ みんなと話し合わせる内容ではないため、ワークシートに書かせる。  ○ 公平に接することができたことや、接してくれたこと等を児童の実態に合わせて話す。

## 板書例

○分けへだてをしないために、大切なこと



でも、休んだ方がいいんじゃないか。

ぼく、休まないよ。

○ひろしの言葉にはっとしたとも子は、どんなことを考えましたか。

・ひろしは、光夫君がけがをして、よかったと思っているんじゃないかな。

・二度も「休んだら」と言っているのは、光夫君が休んだら勝てると思ってるからだ。

・それに、とも子に聞いているのは、自分の味方をさせようとしているように感じる。

・指をかがしているのだから、無理をしない方がいい。

・でも、光夫君自身が大丈夫と言っているのに無理やり休ませようとしている。

○光夫君がいなければ勝てるのに、そんなこと言わずに、勝つことができないようにもっと練習しよう。

同じ仲間だから



## 同じ仲間だから

「今度こそがんばらなくては。」

「負けるものか。でも、やっぱり無理かな。」

運動会が近付き、今日の体育は学級対この「台風の目」という競技の練習です。この競技は、三人一組が横にならんで竹のぼうを持ち、前方に立てられた二つの旗をできるだけ早く回ってくる競争です。二組の教室では、登校してきた人たちが、その話に夢中でした。

とも子が教室に入ると、

「ひろし君も、ともちゃんもがんばってね。」

という声が聞こえてきました。ひろしは、

「だって、ぼくたちのグループには、光夫君がいるんだものな。ともちゃん。」

と、とも子の方をふり向いて不満そうに言いました。とも子も、「そうねえ。」と、相づちを打ちました。

光夫は、何をするにもおそいのですが、運動は特別苦手なのです。この前の練習のときは、光夫と組んでいたとも子たちのグループがおくれたので、二組が負けてしまいました。また、水泳大会のリレーでも光夫がぬかれて負けたことがあります。そのため、負けることが多い二組の人たちは、(今日こそ勝ちたい。)と強く思っていました。

みんなは、いつの間にか教室の後ろの方に集まって、どうしたら勝てるか相談を始めました。とも子もひろしも、その仲間に入りました。

そのとき、ランドセルを背負った光夫が教室に入ってきました。

「おはよう。」

みんなは、光夫とあいさつをしながら、おやっと思いました。光夫の指には包帯がまいてあったからです。だけれど、「光夫君、どうしたの。」と聞くと、光夫は、

「自転車のそうじをしていて、指をはさんでしまったんだ。」

と言いながら、背中をランドセルをおろして、つくえの上に置きました。

ひろしは、何を思ったのか、光夫にかけより、

「光夫君、今日の体育はどうするんだ。休むのかい。」

と聞きました。光夫は、

「ぼく、休まないよ。指だから体育はできるよ。ほら。」

と、包帯をしている指を顔の辺りまで上げて、びくびく動かして見せました。

「そうかい。でも、休んだ方がいいんじゃないか。ともちゃん、

どう思う。」

とも子は、ひろしの言葉にはっとしました。(そのくらいいのがだったらできるはずだ。光夫さんを休ませるなんて、そんなことはいけない。でも、光夫さんが入ればやっぱり……。)



文部科学省『わたしたちの道徳』小学校三・四年

# 1 いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

## ◆学習のねらい

相手の気持ちを考えて行動し、互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする心情を育てる。

## ◆評価

相手の気持ちを考えて行動しようとする意識を高めている。

## ◆教育課程における位置付け

特別の教科 道徳（友情、信頼）

## ◆主な使用教材

・「知らない間の出来事」（文部科学省『私たちの道徳』小学校5・6年）

### 展開例

	学習活動（◇教師の発問例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 友達との関わりについて生活経験を想起する。 ◇ あなたにとって、友達とはどんな存在ですか。	○ 『私たちの道徳』73ページを読み、道徳的価値への問題意識をもたせる。
展開 30分	2 教材「知らない間の出来事」を読み、話し合う。 ◇ みかは、どんな気持ちからクラスのみんなにメールを送ったのでしょうか。  【中心発問】 みかはあゆみのうわさが広がっていることに気付いたとき、どんなことを考えたでしょう。  ◇ みかはあゆみに電話をして、どんなことを伝えたでしょう。	○ 何気なく送ったメールが大変な誤解を招いてしまうことがあることに気付かせる。  ○ 相手の気持ちを考えずに行動したみかには後悔や反省する気持ちがあることに気付かせる。  ○ みかのあゆみに対する気持ちをグループで話し合わせる。
終末 10分	3 今日の学習を振り返り、友達との付き合い方で自分自身が大切にしたいことを考える。	○ 『私たちの道徳』74ページの「友達との付き合い方について大切にしたいこと」を記入させる。

### 板書例

メールのこと

- ・ けい帯電話をもっていないなんて何かあるのだろうか。
- ・ この情報をクラスみんなにも知らせよう。

たがいに理解する

知らない間の出来事

転校生  
けい帯電話をもっていない

- ・ 不安だ。
- ・ みんなと仲良くできるかな。

（あゆみ）

- ・ けい帯電話をもっていないだけでその情報を流すなんてひどい。
- ・ でも、どうしてわざわざ電話してきたのだろう。
- ・ 正直に言ってくれてほしかった。気になったことは直接言葉で伝えてほしかった。友達になれるかも。

（みか）

- ・ こんなことになるなんて思わなかった。本当にひどいことをしてしまった。
- ・ あゆみさんになるなんて想像しなかった。
- ・ あゆみさんの言葉で目が覚めた。友達になってほしい。

### 知らない間の出来事

(あゆみの回想)

(九月一日)
いいよ、新しい学校での生活が始まった。父の転勤とはいえ転校は不安だったが、自己しようかいの後、みんなから拍手をもらい、これから楽しくやっていけそうな気がした。

「ええ、あゆみさん。私たちなんだか仲良しになれそうな気がするの。その訳は後でゆっくり話すね。で、早速だけど、これから一緒に遊ばない。時間と場所は後でメールするから、携帯電話のメールアドレス教えて。」

「こちらこそ、よろしく。でも、ごめんね。私、携帯電話……、持っていないの。その代わり、うちの家の電話番号、教えるから。」

「ええ、なんでみんな私の方を見ているんだらう。」
「それはね、たぶん、あゆみさんのことが書かれたメールの、ことだと思っただけ。」

(九月二日)
新しい学校での二日目。教室に入ると、みんなの視線が何だか自分に向けられて、ことに気付いた。思い切ったとりの席の男子に聞いてみた。

「今度転校してきたあゆみさんは、前の学校で仲間外れになっていたので、この学校に転校してきたんだって。ねえ、それ本当なの。」

「私は、前の学校で仲間外れにされたりしていません。みんなと仲良くして、根も葉もないことをメールで勝手に流されたりして、とても悲しいです。みんながメールのことを本気にしてしまおうといやなので、勇気を出して言いました。」

「あゆみに電話よ。」という母の声が聞こえてきたのは夕方四時ごろだった。

(みかの回想)
(九月一日)
二学期が始まった日、転入生をむかえた。転入したあゆみさんは自己しようかいでこんなことを言っていた。

「私は、漫画が好きで、読むのもかくのも両方好きです。特に、最近は漫画をかくことに夢中です。早くみんなと友達になりたいです。よろしく願っています。早くみんなからだ。私も漫画が大好きで、最近は、かくほうに夢中だった。」

「さっきのあゆみさんの話だけど、どんなことが書いてあったの。」
「私のメールには、『今度の転校生は、携帯を持っていないから、仲間外れにされて、この学校に入ってきたらしい。』と、書いてあったよ。」

文部科学省『私たちの道徳』小学校五・六年

### 資料等

○中心発問で使用するワークシート

道徳学習ワークシート

★ みかにはあゆみのうわさが広まっていることに気付きました。どんなことを考えているでしょう。

( )年( )組( )番 名前( )

○導入・終末で使用する教材『私たちの道徳』(73～74ページ)

ただど……いつかばかりぢやないぞね

友情は成長のおいしい植物である。それが友情という名の花をさかす前に、幾度かの困難な打撃にたえなければならぬ。

ジョージ・ワシントン 初代アメリカ合衆国大統領

友人に不信をいだくことは、友人にあげられることよりもっと取すべきことだ。

ラ・ロシュフコー

●小学6年生に聞きました。

●学校で友達に会うのは楽しいと思いますか。

そう思う	23.9
どちらかといえば、そう思う	5.3
どちらかといえば、そう思わない	13.8
そう思わない	5.3
その他(無回答含む)	51.7

●自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がいいますか。

前ではある	5.8
どちらかといえば、前ではある	26.9
どちらかといえば、前ではある	8.2
前ではある	52.1
その他(無回答含む)	61.7

●友達が悪いことをしたときは注意しますか。

前ではある	4.4
どちらかといえば、前ではある	46.9
どちらかといえば、前ではある	17.4
前ではある	31.2
その他(無回答含む)	44.4

文部科学省『平成25年度全国学力・学習状況調査(小学校)』

●友達のことを聞いて、あなた大切にしたいことはありますか。

6年

5年

6年

5年

1

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

◆学習のねらい

誰に対しても差別をしたり偏見をもったりすることなく、いじめを許さない公正・公平な態度を育てる。

◆評価

いじめは許さないという強い気持ちと、誰に対しても公平な態度で接しようとする意識を高めている。

◆教育課程における位置付け

特別の教科 道徳（公正、公平、社会正義）

◆主な使用教材

・「ユリのうしろ姿」（東京都教育委員会『人権教育プログラム』平成28年3月）

展開例

	学習活動（◇教師の発問例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 いじめに関わる次の状況について、考えを出し合う。 ◇ いじめが起きていることに気付いたとき、どんなことができると思いますか。	○ 学級の実態によっては、事前アンケートをとり、紹介する。
展開 35分	2 教材「ユリのうしろ姿」を読み、話し合う。 ◇ ユリのうしろ姿を見たとき、3人は何を考えたでしょう。  ◇ 男子のひそひそ声が聞こえたとき、「私」はどんな気持ちになったでしょう。  【中心発問】泣き出した「私」を見つめているユリの気持ちや思いについて考えましょう。	○ 真理子、さおり、私の思いや立場を考えさせる。  ○ 二人の態度や周囲の反応に落ち込んでいく私の気持ちに気付かせる。  ○ 混乱、不安、反省といった様々な気持ちを板書で整理しながらねらいに迫る。
終末 5分	3 『私たちの道徳』135ページの「いじめている君へ」を読み、本時の学習で考えたことをワークシートに書く。	○ 本時の学習を振り返り、誰に対しても公平な態度で接することの大切さに気付かせる。

板書例

○いじめを許さず、公正、公平に接するために

○「私」を見つめる「ユリ」

・私、何か悪いことをしたのかな。  
・私は、あの時、正しいことを言っただけなのに、どうしてだろう。  
・仲の良い友達と思っていたのに。

ユリのうしろ姿

ある日、とつ然、仲間外れにされる。

いつも、いっしょにいた三人なのに、何かあったのだろうか。  
・気に入らないことがあると、仲間外れにするなんて許せない。  
・私も、いじめられている人の気持ちがよくわかる。このまま知らん顔することはできない。

教材文

ユリのこころ姿

真理子とさおりと私は、いつもいっしょ。クラスも同じクラブのユリが通りがかった。真理子がユリを呼んで、「今日の放課後の合唱練習は用事で休むから、先生にばだまっておいてね。」と言った。ユリは、「ええ、いやだ。この前もさぼってさおりさんたちと遊んでいたんでしょ。」と困ったように言った。「一人ぐらいいなくなつて分らないわよ。もし、何か聞かれたらうまく言っておいてね。」

「私は何も言わない。自分でちゃんと先生に言ったらいいよ。」と背中を向けて行ってしまった。その日、いつもの三人で帰りながら、「やっぱりユリは生意気だね。」と真理子が言い始めた。何でもよくできて人気者の真理子には、何となく逆らえない雰囲気がある。私だってこれまでに何回も、その真理子との内緒話を楽しんできた。それなのにその時は思わず、「ただ、私たちとの遊びは、今日じゃなくてちがう日でもよかつたんじゃない。合唱の練習があつたんでしょ。」

「え、うん。」と、真理子に言ってしまった。真理子もさおりも、言葉が続かず、ちよつとびっくりにしたようだった。それでも、曲がり角まで来ると、さおりが、「じゃあ、約束どおり、今日は私の家に集合ね。」と言ひ、三人で手をふって別れた。その日は、さおりの家でいつものようにゲームをしてもまん画を読んでも、何となく真理子はよそよそしく、私はいつともほど楽しい気持ちだつた。

次の日の朝も、真理子とさおりのよそよそしきは続いていた。「おはよう。今日の休み時間に、新聞作りの続きをしようね。」と真理子。「ええ、やめよう。授業だけでいいよ。」とさおり。「私も今日はちがうことする。」と私。「じゃあ、休み時間に何をやるの。」と私が聞いても、二人とも聞こえないふりで、テレビ番組の話を楽しそうにしている。

授業中の新聞作りでも、新聞の内容の話はするもの、あとは、じょう談を言っても笑わず、話もきちんと聞いてくれない。休み時間のチャイムが鳴ると、二人でそこそそこかに消えてしまった。

私のはため息をつき、仕方なく教室で本でも読むことにしよう。二人と入れちがいに、友達と遊ぶための長なわを取りに来たユリが教室に入ってきた。ユリは、ちらりと私の様子を見ただけで、長なわを見つけるとすぐに出て行ってしまった。放課後、私はそれでもいっしょに帰ろうとして真理子とさおりに近付いたが、二人はずごい勢いで走って行ってしまった。「待って。」

「小さい声で二人に声をかけた。(どうしてこんな目に見えるのだろう) : : : そう思うと、二人の姿がにじんで消えていった。」 次の日も、その次の日も同じようなことが続いた。「あいつ、はずされたらしいぞ。」という男子のひそひそ声が、耳に入るようになった。数日たつて、その日も一人歩いてみると、後ろから声がかかった。「いっしょに帰ろう。」

ユリの家も近所だ。でも、真理子やさおりのように仲良くしているわけではない。小さい時はいっしょに遊ぶこともあつたが、ユリのことを仲間はずれにして、自分たち三人だけで仲良ししていることが特別なことのように、何となく楽しく感じていた時期があつたのだ。でも、今ではユリも仲の良い友達がいて、そんなことは、忘れてしまったようになっていく。「え、うん。」

私は、とまどつたが、いっしょに帰ることにした。ユリは、今日の給食の話や読んでいる本の話などをしてくれていた。私も話に合わせて、力なくうなずいたり笑つたりしていた。すると、とつ然、ユリが、「大丈夫なの。最近、元気がないけど。」と真けんな表情で聞いた。私は、その言葉に、「私には、どうしたらいいのかわからないの。」と言ひながら、思わず泣き出してしまった。泣いている私を、しばらく見つめていたユリは、...

東京都教育委員会「人権教育プログラム」(平成28年3月)より一部改編

資料等

○終末で使用する教材『私たちの道徳』(134～135ページより)

なぜ、かたよつた見方や接し方をしてしまつたのだろうか
あなたの周りに、つらい思いをしている人はいないだろうか。
あなたの心を傷つけた人、傷ついている人を見つたりしてしまつたのだろうか。
あなたはこのメッセージを読んで、どのようなことを感じますか。
いじめている君へ
この文章を読もうとしている君は、本当の「いじめっ子」ではありません。だからいじめ続けられても悔しい本心の「いじめっ子」は、とても鈍感で、これを読んだり、改めたい気持ちのことを考えたりなど、するはずがありません。